

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	一般社団法人 太鼓と芝居のたまっ子座
公演団体名	太鼓と芝居のたまっ子座

内容
<p>たまっ子座の創作曲「風とカミナリ」(小学生及び条件により中学生)、及び「牛と櫓の太鼓」(中学生)をテキストとして、日本の伝統楽器である和太鼓の音楽表現と、たまっ子座の特色でもある演劇的表現を体感し、集団表現を創り上げていくプログラムです。「表現する楽しさを全身で創造的につかむ」ことを基本理念に、以下を意図して進めます。</p> <ul style="list-style-type: none">●ワークショップ当日→その後の校内での練習→本番当日のリハーサルまでの道筋を辿りながら、全校生を前にした巡回公演本番のたまっ子座との共演において、表現を広く発信する喜びと達成感を得ることを目指す。●複数の楽器のアンサンブルとソロを織り交ぜ、全員参加の一体感のある演奏を目標とすることで、「自分の役割」と「互いに関わり合う楽しさーコミュニケーション」の発見と自覚を促す。 <p><進行></p> <p>*小学校(中学校)</p> <ol style="list-style-type: none">1) オリジナルの太鼓体操で体と心をほぐした後、口伝でリズムを区切りながら習得。全員が入れ替わりながら太鼓を打ち、ジャンプや回転、力こぶといったカミナリの振付を加え、全身で覚えていきます。2) 一通りリズムが入った頃、講師6名による演奏を観て、イメージを拓けます。3) 児童・生徒の希望に添って、太鼓を演奏する役、雲旗を振り走り回る役、銅鑼や鉦を鳴らす役、竹ボラを吹き、瓢箪を振る役等に分かれ、其々劇団員と共に稽古を進め、黒雲が湧き雷鳴が轟き、稲光や降り出す雨の様を想像しながら、全身で自由に創造的に楽しむ表現を目指します。 <p>*中学校</p> <ol style="list-style-type: none">1) オリジナルの太鼓体操で体と心をほぐした後、課題曲を口伝でリズムを区切りながら習得。全員が入れ替わりながら実際に太鼓を打ち、躍動感あふれる動きを加えて、全身表現として覚えていきます。2) 一通りリズムが入った頃、講師6名による演奏を観て、イメージを拓けます。3) 生徒の希望に添って、櫓太鼓、長胴太鼓、締め太鼓、鳴り物等に分かれ、其々劇団員と共に丁寧に稽古を進め、「ほとぼしる命」をテーマとした曲想に中学生ならではの多感な思いを込め、リズムや動きに乗せて表現する楽しさを体感することを目指します。

タイムスケジュール(標準)
準備時間: 60～90分 ワークショップ所要時間: 100分(2時限分+10分を目安に) 片付け時間: 1時間程度(片付けの間に担当の先生との打ち合わせを予定しております。)

派遣者数
主任講師 1名、補助講師 5名

学校における事前指導
<ul style="list-style-type: none">・ワークショップ実施前の特別な指導の必要はありません。・実施後、巡回当日までの間の指導は、学校により期間、条件等の差異があり詳細はお任せしていますが、実施後の打ち合わせ時に以下をお願いしています。 <ul style="list-style-type: none">●たまっ子座で作成した概要記載のプリントと、学校側で撮影していただいたビデオ(リズム指導の様子や全体の動き等)を活用しての校内練習。★「楽しみながら」を基本に!●ワークショップで使った楽器等を一組ずつ各校に預け、また先生方に新聞紙を使った「マイ撥」の作り方を伝授。後日子どもたちと一緒に作成して、自主的な練習を促すよう依頼。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	一般社団法人 太鼓と芝居のたまっ子座
公演団体名	太鼓と芝居のたまっ子座

演目
和太鼓ライブ「いちにのドン」 —————生きてるものには 音がある！ いのちの音が はずんでる！ 作・演出・作曲 末永克行 振付 若林宏二
「いちにのドン」は、1989年の初演以来、国内はもとより、スペインやアメリカ、カナダ等、海外の国際児童演劇祭公演も含め、各地で好評を頂いている作品です。太鼓や篠笛、様々な楽器のドラマチックな演奏は、地球に生きる様々な生き物たちが発するいのちのメッセージや、農耕社会で自然と共に生きてきた日本人の思いを、言葉を超えて子どもたちの全身に伝えます。また、和楽器の臨場感あふれる生の響きは、共に生きる喜びを湧き立たせ、日本の伝統文化との時を越えた出会いを生みます。

派遣者数
出演者:10名 舞台監督他スタッフ:3名 合計 13名

タイムスケジュール（標準）
・舞台設営は、児童生徒数、会場条件により、張出し舞台と平土間舞台との2種から選択します。 ・仕込み開始時間は、前の実施校からの移動後となる為、移動距離等により変動します。 ・共演する学年は、終演後劇団員と共に40分程度の振り返り・交流時間を持ちます。（下校時間要確認）
★巡回本番が午後公演の場合
前日 ・仕込 17:00～19:00（この後、撤収完了まで体育館は使用不可）
当日 ・仕込 7:30～（児童生徒の登校時間、前日準備の状況により変動有）
・リハーサル 9:00～（劇団のみ）
10:30～12:00（共演児童・生徒参加）
・開場 13:15～、
・開演 13:30～、
・終演 14:45（ご挨拶・感想発表等全校でのまとめの会を含む）
・振り返り交流 15:00～15:40（共演児童との振り返り・交流）
・終了 16:30（撤収完了）
<午前中の公演希望の場合は、1～2時間目が児童とのリハーサルになります>

実施校への協力依頼人員
・共演する学年のクラス担任、行事担当の先生、可能な範囲で教務主任、音楽専科、管理職の先生方等。（体育館の条件により、別途、搬入・撤収のご協力をお願いする場合があります。）

演目解説

「オープニング」…グルグル渦を巻いた角笛が登場。希望する児童に吹いてもらって幕開きを告げると、タイトルイメージをあしらったパネルの上で小さな太鼓がカニやカタツムリなどを形作ってリズムカルに演技。パネルが開くといよいよ演奏開始。

「虫追い太鼓」…ユーモラスな虫とカカシのパントマイムのやり取りを導入に、虫が着くほどの豊作を願いながら打つ、明るく力強い太鼓曲。

「月夜のカエル」…不思議な音色で描く、のどかな水辺の情景。

★ 児童・生徒との共演 「風とカミナリ」 / 「牛と樗の太鼓」

…ドラマチックな曲想にのって、子どもたちがカー杯打出すリズムや演技に、客席も演者も心が躍ります！

「機関車太鼓」…力強く走る機関車と、窓辺に移り変わる風景を、音楽と演技でユーモラスに描くたまっ子座の代表作。

「穴の開いているものは？」…いろいろな形の笛を楽しく紹介するコーナー。

「牛と樗の太鼓」(小学校) …何百年も生きた樹のいのちと、動物のいのちをもらって生まれた日本の太鼓。自然のいのちが響きわたります！

「海の太鼓」(中学校) …海はいのちの故郷。荒波を越え、希望に向かって漕ぎ出す様子を、力強い太鼓と澄んだ篠笛の響きにのせて。

「祝祭」(アンコール曲)…今日の出会いを喜び祝う、躍動的な太鼓曲。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

ワークショップの参加は、小学校の場合は高学年から希望の学年を、中学校は希望の学年(人数によっては学級)を設定していただきます。代表児童生徒数名ではなく、学年又は学級「全員」の体験・出演ということが学校現場からの希望として強くあり、たまっ子座としても、太鼓ならではの出会いを広げたいという思いから、楽器の数や種類を調整しながら実現に向けて対応しています。ワークショップ前半の全員での太鼓体験と、後半のパートごとの表現の工夫を、曲に即して、たまっ子座の出演者と一緒に積み重ね、その成果を発表したいという意欲を引き出せるよう努めています。(ハチマキやワンポイントの衣裳など、気持ちや、全体の雰囲気盛り上げる小物を劇団で用意し、着用してもらいます。)

限られた時間の中ですが、ワークショップでの体験、学習を、学校内での復習、巡回公演当日午前中のリハーサル(90分予定)等でさらに膨らませ、かけ声を掛け合いながら、他学年や先生方の視線を出演者のエネルギーに取り込む、楽しいライブコラボレーションをめざします。

児童生徒とのふれあい

- ・ワークショップでは、講師たちによる共演作品の模範演奏の後、パート毎に児童生徒に交って直接指導。ワーク及び当日リハーサルの最後には、感想や質問を受けて交流、気持ちを高めます。
- ・公演当日、共演の演目では、本番の緊張感や観客の反応の中、同じ舞台上で間近の劇団出演者と息を合わせアイコンタクトしながら、表現する者どうしの思いを共有します。
- ・本番終了後は、楽器や衣裳、道具類を出演者と共に片付け、その後ワークショップから本番まで体験しての感想、意見を児童・先生方・劇団員各々出し合い、振り返りと交流、まとめとします。
- ・出演児童生徒は、出番以外は他学年と共に自分の席でたまっ子座の本番を観劇。
- ・他学年の児童生徒に関しては、公演の幕開きを告げる角笛演奏 にその場で希望者数名がチャレンジし、客席を巻き込んだパフォーマンス や 全校でのリズム手遊び の演目も、プログラムに盛り込んでいます。

